九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

資料紹介:六本松分館所蔵「濱文庫」

中里見, 敬
九州大学大学院言語文化研究院 : 准教授 : 中国文学

https://hdl.handle.net/2324/9352

出版情報：きゅうとNewsletter. 2 (5), pp.3-4, 2008-02. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

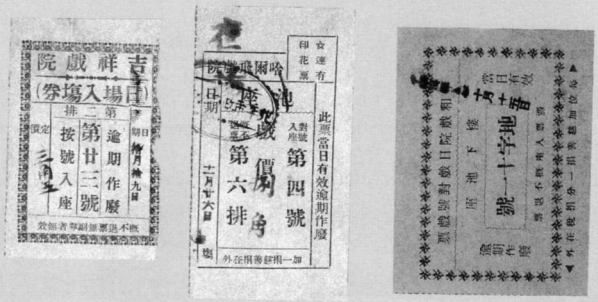
六本松分館所蔵『濱文庫』

九州大学附属図書館六本松分館には、中国演劇を専門とされた濱一衛(1909-1984)・元教養部教授の蔵書が濱文庫として収められています。濱先生は1934年から2年間の北京留学中に、当時の演劇関係の資料を収集されました。この1930年代、さらにその後も収集を続けられた資料は、中国の演劇に関する書籍を網羅するだけでなく、レコードやスライド写真から新聞・雑誌の切り抜きまで多岐にわたり、現在入手することのできない生の資料を多く含んでいます。文献中心の戯曲研究を乗り越えようとされた濱先生の考え方もさることながら、理屈ぬきにお芝居好きだった濱先生の中国演劇への情熱が、濱文庫を特色あるコレクションとしています。文庫の全貌は『濱文庫(中国戯劇関係資料)目録』(九州大学附属図書館教養部分館, 1987; 第2刷1988)で知ることができます。

なお、2009年3月の六本松キャンパス移転にともない、濱文庫は箱崎の中央図書館へ移管される予定です。

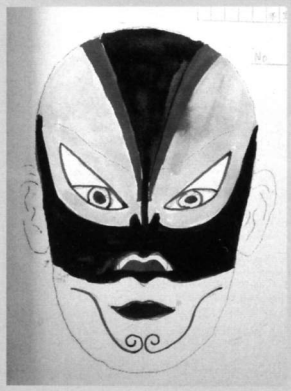
戯単(芝居のチラシ)

上段に広和楼という劇場名、中段に俳優名、下段に出し物が印刷されている。京劇の名優・梅蘭芳が1904年に10歳で初舞台を踏んだのもこの劇場である。広和楼は北京最古の戯楼として前門外にあったが、2007年惜しまれつつ解体された。この戯単はそうした京劇の盛時をしのばせてくれる。



チケットの半券

当時の芝居の入場料金や座席指定であることなどがわかっておもしろい。



隈取り図

中国演劇では役柄によって独特の隈取りをする。これは濱先生がご自身で多数描かれた隈取り図の一枚。

レコード

中国の伝統演劇は、唱(うた)と白(せりふ)からなる歌劇(オペラ)であるため、中国語では「聴戯」、すなわち「芝居を聴く」という。そのため演劇の録音が早くからレコード化された。濱文庫にはLP盤、SP盤あわせて約200枚のレコードがある。写真は、おなじみの犬と蓄音機の商標がついたビクターのレーベル。

レコードの目録

当時、RCA Victorが中国で発売していたレコードの目録。現存するのは珍しく貴重である。折りたたみ式の大判で、写真は表紙のみ。目録には1930年代の流行歌手・王人美なども見られるが、濱先生の収集対象ではなかったのか、濱文庫には流行歌曲のレコードが収められていないのは残念である。

唱本

一冊十葉以下の小冊子の唱本が、濱文庫には数百冊以上も所蔵されている。その内容は「説唱」(韻文による語り物)や「雑曲」(民間の歌謡・俗曲)などである。庶民の芸能を伝える唱本がまとまって所蔵されるのも濱文庫の貴重な点である。